

CASBEE®-建築(既存) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(既存)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_EB_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜藤が丘NBIビル	階数	2階
建設地	神奈川県横浜市青葉区藤が丘1丁目14番49	構造	S造
用途地域	第2種中高層住専、第1種低層住専	平均居住人員	1,100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,205 時間/年
建物用途	物販店,病院,	評価の段階	
竣工年	2019年3月 竣工	評価の実施日	2024年2月1日
敷地面積	1,006 m ²	作成者	(株)イズミコンサルティング
建築面積	489 m ²	確認日	2024年2月1日
延床面積	953 m ²	確認者	(株)エンドウ・アソシエイツ



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 82%
 ③上記②以外の 82%
 ④上記+ 82%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	屋上に太陽光パネルを設置し、CO ₂ の削減に貢献するとともに発電した電気は共用部の電気設備(照明等)に供給。また、屋上緑化及び敷地内に緑地を設けることで地球温暖化対策も実施しました。	
その他		
Q1 室内環境	☆☆☆☆☆建材を全面的に採用、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮しました。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	補修必要間隔の長い外壁材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮しました。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	屋上緑化及び敷地内に緑地を設けることで地球温暖化対策も実施しました。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	太陽光発電システムや、高効率の設備機器を採用するなど、エネルギー面にも配慮しました。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	A種(ノンフロン)断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避しました。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮しました。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(既存)2014年版
横浜藤が丘NBビル

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(既存)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_EB_2014(v.3.0)

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.4
Q1 室内環境			0.40			2.2
1 音環境		2.1	0.15	-	-	2.1
1.1 騒音		3.0	0.57	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.23	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	1.00	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		1.5	0.35	-	-	1.5
2.1 室温制御		2.1	0.50	-	-	
1 室温		1.0	0.42	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.22	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.36	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
1 上下温度差		1.0	0.50	-	-	
2 平均気流速度		1.0	0.50	-	-	
3 光・視環境		2.2	0.25	-	-	2.2
3.1 昼光利用		2.3	0.39	-	-	
1 昼光率		1.0	0.34	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.66	-	-	
3.2 グレア対策		1.0	0.17	-	-	
1 昼光制御		1.0	1.00	-	-	
2 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		1.0	0.09	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.36	-	-	
4 空気質環境		3.1	0.25	-	-	3.1
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	0.50	-	-	
2 アスベスト対策		3.0	0.50	-	-	
4.2 換気		2.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙としている	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		2.7	0.40	-	-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.2	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.21	-	-	
3 内装計画		1.0	0.79	-	-	
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.30	-	-	
3 衛生管理業務		2.0	0.20	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.5	0.30	-	-	3.5
2.1 耐震・免震		3.0	0.25	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.25	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.25	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数30年以上	5.0	0.25	-	-	
3 床仕上げ材の補修必要間隔		-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.13	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:SUS管(C)、排水:耐火二層管(B)、冷媒:銅管(C)	4.0	0.13	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.25	-	-	
2.3 適切な更新		4.5	0.25	-	-	
1 屋上(屋根)・外壁仕上げ材の更新	耐用年数を超えていない	5.0	0.42	-	-	
2 配管・配線材の更新		1.0	0.42	-	-	
3 主要設備機器の更新	耐用年数を超えていない	5.0	0.42	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	防振吊の採用	3.0	0.25	[Cross-hatched]	-	3.2
	2	給排水・衛生設備		4.0	0.20		-	
	3	電気設備	地下階なし	2.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		4.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	平均階高3.5m以上	3.6	0.30	-	-	3.2
	2	空間の形状・自由さ		4.0	0.60	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.40	-	-	3.2
3.3 設備の更新性				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性		3.2	0.40	[Cross-hatched]	-	3.2
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラックおよび保護配管の採用	2.0	0.20		-	
	4	通信配線の更新性	ケーブルラックおよびPF管の採用	5.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性		5.0	0.10		-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.78	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI _m 非住宅 0.72 住宅(専有部) -	4.6	0.50	-	4.6
3.1 集合住宅以外の評価(3.1a, 3.1b)				BEI _m =0.72	4.6	-	-	4.6
3.1 集合住宅の評価(3.1c)				[Cross-hatched]	-	-	-	
3.2 実績値を用いた総合評価				3.0	1.00	-	-	
4 効率的運用				3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00	-	-	3.5
4.1 モニタリング				4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				[Cross-hatched]	-	-	-	3.5
4.1 モニタリング				[Cross-hatched]	-	-	-	
4.2 運用管理体制				[Cross-hatched]	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	2.2
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	3.5
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60	-	-	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	-	3.5
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				リサイクル建材を2品目使用	4.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				LGS下地の為、躯体と仕上材が容易に分別可能、設備との錯綜なし	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	3.7
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				A種(ODP=0)の発泡剤を使用	5.0	0.50	-	-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	3.7
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率82%	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮				3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	3.3
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.3	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減					-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.33	-	3.3
3 交通負荷抑制					3.0	0.33	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.33	-	3.0
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	3.0
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	3.0
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				[Cross-hatched]	-	-	-	3.0
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	3.0